

平成26年度病害虫発生予報第11号(2月予報)

＜今月のコラム＞ ・早期ロータリーによるケブカアカチャコガネの防除について
・ニンガチ・カジマーイ(二月風廻り)

＜お知らせ＞ イネヨトウの性フェロモントラップへの誘殺数の推移について以下URLに掲載しております。
<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojou/documents/ineyo-phero.html>

今月のトピックス

カンシャワタアブラムシ(さとうきび)

学名: *Ceratovacuna lanigera*



コロニーを形成している様子



コロニーの拡大写真



甘露が原因で発生したすす病



←幼虫と無翅虫

有翅虫→
秋に新植夏植ほ場に
定着する



生態と被害

無翅成虫や幼虫が葉裏に群がって、体表から大量の白いワックスを分泌するため左上の写真のように葉裏が真っ白な綿に覆われているように見える。吸汁された茎は生育が遅延し、また、幼成虫が大量の甘露を排出するため、コロニーの下にある葉にすす病が発生し、光合成が阻害されひどい場合には葉が枯れる。本種は高温に弱く、夏期は木陰のススキの葉裏で夏を越す。有翅虫が新植夏植ほ場に定着し、春の大発生の原因となる。天敵であるマエウスジロマダラメイガの密度が高い場合は自然に発生が収まる。

春の発生を抑えるために発生が見られる新植夏植ほ場における2～3月の薬剤防除を徹底する。薬剤散布をする場合、葉裏に薬剤がかかるように注意する。

<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojou/index.html>